

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

1. 令和 5 年度（2023 年度）適正利用・エコツーリズム WG の開催概要

- ・第 1 回会議 令和 5 年（2023 年）7 月 19 日（水）斜里町産業会館

2. 主な議事内容

遺産管理計画の見直しに関して、適正利用に関する項目を中心に議論されました。また、適正利用・エコツーリズム検討会議の進め方についても意見交換が行われました。主な意見・指摘事項は以下のとおりです。

■遺産管理計画の見直しについて

【全般】

- ・課題がある以上、見直しの方向性は課題解決を志向した記述とするべき。

【2.管理計画の基本的事項（1）管理計画の目的】

- ・「特異な価値」という表現は、「普遍的な価値」がふさわしい。IUCN の勧告にも「特異」の用語はなく、英訳された場合に違和感を与える可能性がある。

【2.管理計画の基本的事項（2）管理計画の対象範囲】

- ・管理計画の対象範囲は遺産地域だが必要に応じて周辺地域も含む、と読めるが曖昧な印象を受ける。特に例示された OECM は管理体制などの仕組みが異なるため、別項目に移動した方が良い。

【3.知床世界自然遺産の価値】

- ・知床はクライテリア以外にも重要な価値を有している。自然景観や文化的価値なども追記してはどうか。

【6.管理の基本方針 6-2 基本方針（7）自然の適正な利用】

<①利用の適正化>

- ・現状の地区区分（A 地区、B 地区）を堅持するが、地域から提案のあった 9 つのゾーニングはエコツーリズム戦略などの関連計画にて検討整理する。

<⑤海域のレクリエーション利用>

- ・さまざまな課題が挙がっている中、従前と同様の利用の心得などに基づく対応だけで解決できるのか疑問。国立公園の管理計画も踏まえて、整理することが重要である。

<⑦安全で安心な利用の推進>

- ・観光船のことだけでなく、各種ツアー等のアクティビティのほか、ヒグマへの対策も含め、安全に関する事項は本項目に統合して記載すべき。
- ・特に、すべてのツアーや利用でヒグマに対する危険の回避に最優先で取り組むという考え方を明記することが重要である。
- ・安全は、さまざまな対策や具体的で科学的な取組みとして記載すべき。安心は、感情や信頼感のようなもので、その前提として安全がある。両者を書き分けることが必要。

<①～⑦の階層構造について>

- ・階層レベルが同一ではなく、適正な利用に当たっての上位レベルの内容と個別具体的内容

が混在しているため、項目立てを再整理する必要がある。

【6.管理の基本方針 6-2 基本方針(8)長期モニタリング及び総合評価に基づく順応的管理】

- ・モニタリング結果をフィードバックし、管理の改善に繋げることもしっかりと記述すべき。

■第2期長期モニタリング計画に基づく総合評価手法について

- ・事務局案に対して、特段の意見なし。

■適正利用・エコツーリズム検討会議の進め方について

- ・エコツーリズム戦略に基づく利用の提案制度は、地域が主体的にプランを作り、専門家や行政と一緒に議論し実現していくという素晴らしい制度であるが、近年新たな提案がない。それぞれが、今以上に対等な立場でコミュニケーションを図り、地域の事業者が世界自然遺産等の利用方針に合致するような提案ができるように協働していく必要がある。
- ・その際、専門家はそれぞれの専門分野から最新の話題や懸念していること、関心のあることを伝えること、地域側は現場で起きていることを伝えるといった意見交換の時間を十分にとり、議論を深めていく。
- ・今後、遺産管理計画の見直し検討と整合を図りつつ、上記やゾーニングの検討、新たに制度化された自然体験活動促進計画も考慮しながら、エコツーリズム戦略の見直しを行っていく。

3. 令和5年度(2023年度)適正利用・エコツーリズムWGに関する今後の予定

◆第2回適正利用・エコツーリズムWG

令和6年(2024年)2月(予定)

以上